

トマト黄化葉巻病の発生が多くなっています

栽培終了時にコナジラミ類をしっかりと防除しましょう

平成24年産冬春トマトでは、県内全域でトマト黄化葉巻病（写真1）の発生が目立っており（図1）、次作の発生に注意する必要があります。トマト黄化葉巻ウイルス（TYLCV）はタバココナジラミによって媒介されます。本病の防除対策は、タバココナジラミの防除が基本であり、ウイルス保毒虫を『入れない、増やさない、出さない』ことが大切です。

トマトほ場での伝染環（図2）を断つため、栽培終了時にハウス密閉による蒸し込みを実施し、コナジラミ類のハウス外への飛散を防ぎましょう。また、蒸し込みを実施する際には、以下のポイントに留意しましょう。

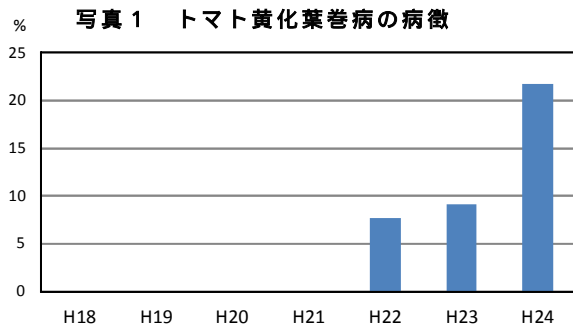


図1 トマト黄化葉巻病の発生ほ場率(4月)の推移



図2 トマト黄化葉巻病の伝染環

【ハウス密閉処理（蒸し込み処理）のポイント】

収穫終了時に薬剤を散布し、コナジラミ類の密度を低下させてから処理する。

処理前にハウス内の雑草を除去する。

トマトは抜き取りまたは株元で切断し、速やかにハウス密閉処理をする。

日中のハウス内温度が40℃以上であることを確認し、7日間以上（天候により処理日数を延長する）蒸し込みを実施する。

（保毒虫がハウス外へ出ないように完全密閉）

ハウス内にコナジラミ類の餌になる植物があると、コナジラミ類が生き残ってしまい、十分な効果が得られません。絶食と高温処理を組み合わせることでより効果が高まります。

注）ハウス密閉に伴う高温等によるハウス部材の故障や変形には十分に注意して下さい。

詳しくは、農業環境指導センター（<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/>）までお問合せ下さい。

また、当センター携帯サイト（<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/keitai.htm>）もご利用下さい。

（ 0 2 8 - 6 2 6 - 3 0 8 6 ）